

7 (日曜)

## この世にはハマンのような 悪い人たちがいます

エステル 3 : 1~5 ハマンはモルデカイが自分に対してひざまがめず、  
ひれ伏そうともしないのを見て、<sup>いきどお</sup>憤りに満たされた。(5)

### 1 . 世の中を知って、世の中に勝たなければ世の中を生かすことができません

(1) 世の中には教わるべき美しいものがあります (創 1:28)

(2) しかし、世の中には悪いことと悪い人々もいます

(伝 12:1 - 10)

(3) 世の中は、多くの霊的な問題を持っています (ヨハネ 8:44)



## 2. ハマンはどのような人だったのでしょうか

- (1) さびしさ、<sup>こどく</sup>孤独という名前の<sup>いみ</sup>意味を持っていたハマンは、アガゲ人ハメダタの<sup>むすこ</sup>息子でした
- (2) すべての人が自分にひざをかがめてひれ伏すように<sup>ほうりつ</sup>法律を作りました  
(エステル 3:2)
- (3) ユダヤ人のモルデカイは、ハマンにおじぎをしませんでした。この<sup>じじつ</sup>事実を知ったハマンはユダヤ人<sup>ぜんいん</sup>全員を殺そうとしました (エステル 3:4~5)
- (4) ハマンの<sup>けいかく</sup>計画は<sup>しっぱい</sup>失敗におわり、ハマンは<sup>こうしゅけい</sup>絞首刑になりました  
(エステル 9:14~28)

## 3. 信徒には、<sup>しんとう</sup>かならず<sup>べつ</sup>別のものがなければなりません

- (1) 福音と<sup>けいやく</sup>契約に対する<sup>たい</sup>深い<sup>ふか</sup>奥義<sup>おくぎ</sup>を持って、自分がだれか(アイデンティティ)を知らなければなりません (エステル 2:10)
- (2) 世の中の力ではない<sup>べつ</sup>別の力(神様の力)を持つべきです
- (3) 世の中が知らない<sup>べつ</sup>別の<sup>おくぎ</sup>奥義(福音の力)を持つべきです





(日曜)

## モルデカイは

## 信仰で勝利しました

エステル 2：10、20 | エステルは、モルデカイが彼女に命じていたように、まだ自分の生まれをも、自分の民族をも明かしていなかった。エステルはモルデカイに養育されていた時と同じように、彼の言いつけに従っていた。(20)

### 1. 信仰の人は持っていないなければならないことがあります

- (1) 祈りを通して、未来を見る目を持たなければなりません (ヨエル 2:28)
- (2) 問題と答えを見つける目を持たなければなりません
- (3) 世の中に勝つ力を持たなければなりません (エステル 4:1～14)



## 2. モルデカイはどのような人でしたか

(1) 礼拝する者という名前の意味を持っていた

モルデカイは、エステルを養育した、いとこでした  
(エステル 2:5 ~ 10)

(2) バビロン(バビロニア)の捕虜になって来ていた

モルデカイは、王宮で働きながら、王を\*暗殺する  
\*陰謀を前もってふせぎしました (エステル 2:22 ~ 23)

(3) ハマンは、モルデカイが自分におじぎをしないという

理由で、ユダヤ人をすべて殺すと言いました。しかし、  
モルデカイは、イスラエルを死から救いました  
(エステル 4:1 ~ 14)

(4) モルデカイは、ハマンに勝って、総理になりました

(エステル 8:1 ~ 15)



## 3. Remnant7 人は重要な力を持っていました

(1) 神様の力を持っていました

ヨセフ(創 41:38)      モーセ(出 3:18 ~ 20)      サムエル(サムエル 3:19)  
ダビデ(サムエル 16:13)      エリシャ(列 2:9 - 10)  
イザヤ(イザヤ 6:1 ~ 13)      パウロ、テモテ(テモテ 2:1)

(2) 世の中に先立つ奥義を持っていました (使 2:17)

(3) 戦わずに勝利する力を持っていました (エステル 8:1 ~ 15)

\*暗殺: こっそりと人を殺すこと

\*陰謀: 悪い目的でこっそりと悪いことを計画すること。または、その計画。



21 (日曜)

エステルは  
女のレムナントの  
モデルです

エステル 4 : 14 | もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。



## 1. 主とともにいる人は何が違うのでしょうか

- (1) 捕虜<sup>ほりよ</sup>になっても信仰<sup>しんこう</sup>を失<sup>うしな</sup>いませんでした
- (2) 今日<sup>けふ</sup>に勝利<sup>しょうり</sup>しました (エステル 2:1 ~ 18)
- (3) 現場<sup>げんば</sup>に勝利<sup>しょうり</sup>しました (エステル 2:1, 4:14, 5:1 ~ 14)

## 2. エステルは、どのような人でしたか

- (1) 星<sup>せい</sup>という名前<sup>な</sup>の意味<sup>いみ</sup>を持ったエステルは、ベニヤミン<sup>そく</sup>族<sup>ぞく</sup>の  
アビハイル<sup>むすめ</sup>の娘<sup>むすめ</sup>でした (エステル 2:15)
- (2) エステルは、親<sup>おや</sup>を亡<sup>な</sup>くして育<sup>お</sup>ち、王妃<sup>おうひ</sup>になりました (エステル 2:17 ~ 18)
- (3) 王<sup>わう</sup>はエステルを飛<sup>と</sup>びぬけて愛<sup>あい</sup>しました (エステル 5:1 ~ 14)
- (4) エステルはイスラエル<sup>いすらえ</sup>を救<sup>すく</sup>いました (エステル 4:14)

## 3. エステルの知恵<sup>ちえ</sup>と信仰<sup>しんこう</sup>を学ばなければなりません

- (1) エステルは、王妃<sup>おうひ</sup>になった後<sup>のち</sup>に、ユダヤ人<sup>よだやじん</sup>であることを  
告<sup>つ</sup>げませんでした (エステル 2:10, 20)
- (2) 危機<sup>きき</sup>の瞬間<sup>しゅんかん</sup>に重要<sup>じゅうよう</sup>な決断<sup>けつだん</sup>をくだしました  
(エステル 4:14)
- (3) エステルは、知恵<sup>ちえ</sup>をもって問題<sup>もんだい</sup>を解決<sup>かいけつ</sup>しました  
(エステル 5:1 - 14)





## 信仰の人ふたりが

# 勝利とプリムの祭りの働きを なしとげました

エステル9：26 | こういうわけで、ユダヤ人はブルの名を取って、これらの日をプリムと呼んだ。こうして、この書簡のすべてのことばにより、また、このことについて彼らが見たこと、また彼らに起こったことにより、

### 1. アハシュエロス王はどのような人ですか

- (1) 名前は偉大な者という意味です
- (2) 彼は、メディア族で、ダリヨス王の父親でした
- (3) 百二十七州を治めていた人でした (エステル1:1)
- (4) エステルを王妃にしました (エステル2:1~17)
- (5) ハマンの\* 謀略をくずして、ユダヤ人を勝利させました (エステル10:1~3)

### 2. 契約は、かならず成しとげられます

- (1) アダルの月14~15日まで\* プリムの祭りを守りました (エステル9:26)
- (2) プリムの祭りは、ハマンが殺され、ユダヤ人が勝利した日です
- (3) プリムの祭りになると、すべての民がエステル記を朗読する伝統ができました



### 3. 契約を持った人は、日をのがすことはありません

- (1) ヨセフは総理になった理由を知ったため、兄たちを許し、世界福音化の祝福を味わいました (創 45:1~5)
- (2) 80年間待ったモーセは、犠牲のいけにえのささげものを知ったあと、出エジプトの祝福を味わいました (出 3:18)
- (3) サムエルは祭司になった時にミツバ運動をしました (サムエル 7:1~15)
- (4) ダビデは国が危機だった時に王になることを知っていたため、ゴリヤテの前に立つことができました (サムエル 17:1~47)
- (5) エリシャは、ともがらを育てるレムナント運動をしました (列 6:8~23)
- (6) イザヤは神様を見たあと、切り株の奥義を知りました (イザヤ 6:13)
- (7) ペテロは、イエス様がキリストであるという告白をしたあと、福音運動の祝福を味わいました (マタイ 16:16)

- \* 謀略：事実をまげたり、だましたりして他の人に害になるようにすること
- \* プリムの祭り：ユダヤ人がアダルの月 14~15 日に行ったユダヤ人のお祭り。ヘブル暦でアダルの月は、太陽暦で 2、3 月のこと

アハシュエロスの時代のこと——  
このアハシュエロス、ホドからグシュまで百二十七州を治めていた——  
アハシュエロス王がシュシヤンの城で、  
王座に着いていたところ

